

「学びの深まりを目指した授業づくり」
～ICT 機器などを活用した思考の可視化に焦点を当てて 二年次～

I 研究の内容

1 研究の具体的内容と方法

(1) 研究の内容

ア ICT 機器を活用した学び合いや考えを高め合う授業づくり

- ・各教科において、ICT 機器の効果的な活用を工夫する。
- ・ICT 機器を活用した授業を実践し、授業力を高める。

イ 学習環境づくり

- ・学習集団づくり…Q-U の活用，家庭学習力アンケートの活用
- ・学習習慣の確立…中学校までの6年間を見据えた授業規律の徹底
- ・さわやかタイムの有効活用，家庭学習の充実，学習スタンバイの活用

(2) 研究の方法

ア 英語科研究授業を1本行う。(市内公開)

ウ 一人一実践を行う。

エ ICT 機器の活用に関わり，学習会を設けたり，日常的に学び合ったりする。

2 研究実践

(1) 研究公開授業【10月】

第5学年 英語科 We Can! 1 Unit 6 「I want to go to Italy.」授業者 HRT 内藤 健

ALT アレックス・ガウチャー

専科 丸山 正史

JTE 岩崎 利香

指導助言 山梨大学 大学院 古家 貴雄 教授

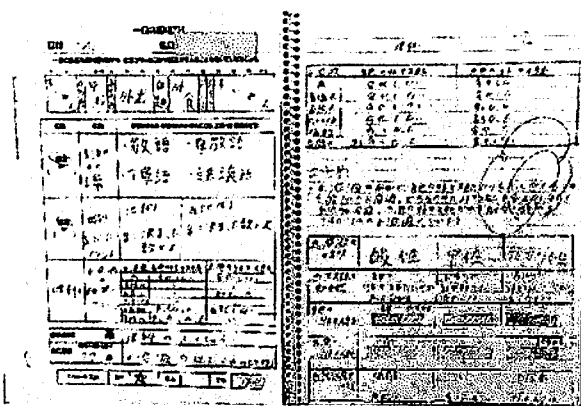
(2) 拡大校内研【11月】

3年間の笛川小・中連携の取り組みについて，成果と課題の共有

Ⅱ 成果と課題

1 成果

- (1) 継続的にipadを使って学習してきたことで、高学年ではプレゼンテーション用資料が短時間で作ることができた。
- (2) 小中連携を意識した英語の授業づくりを行った結果、担任によるclassroom Englishの多用した授業やsmall talkなど教師のスキルが向上した。
- (5) Q-U, 家庭学習力アンケートの活用を行うことで、客観的に学級をふり返ることができ、学級経営に生かすことができた。
- (6) 家庭学習（5・6年生の「授業のふり返り」）や学習規律など、中学校との連携もふくめて昨年度の成果と課題をもとに、より進んだ取り組みを行うことができた。



6年生の自主学習ノートと振り返りカード



中学生の生活ノートの拡大掲示（高学年廊下）

2 課題

- (1) ICT機器を活用することがメインになってしまわぬよう、学習目標達成の為のツールという位置づけを忘れずに意識し、授業に取り入れていく姿勢を忘れてはいけないと感じた。
- (2) 担任による英語の授業は日々の積み重ねが必要である。
- (3) 家庭学習については中学校への接続を意識した家庭学習を高学年で昨年度より引き続きおこなっている。低・中学年では、カードを記入することが形式的になってしまっていた。そのため今年度は取り組まなかった。家庭学習の意識が薄れてしまった部分がある。家庭学習の充実につながるような工夫を講じていきたい。
- (4) 英語科研究授業公開（市指定）、小中連携拡大校内研（県指定）のため、個人での授業実践になってしまい、学校全体での研究の時間が十分に確保できなかった。

Ⅲ 成果物

- 1 研究授業
- 2 研究授業後の講師からの指導・助言・資料等
- 2 小中連携事業拡大校内研でのまとめ

（ 研究主任 上野 瞳 ）